

香川県の地震

令和6年（2024年）11月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	2
香川県の地震表（震度1以上）	・・・	2
震度分布図	・・・	2～3

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果

（令和6年（2024年）12月6日）

・・・ 4

地震一口メモ

津波情報等に活用する観測地点の追加について

・・・ 5～6

この資料の震源リスト・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

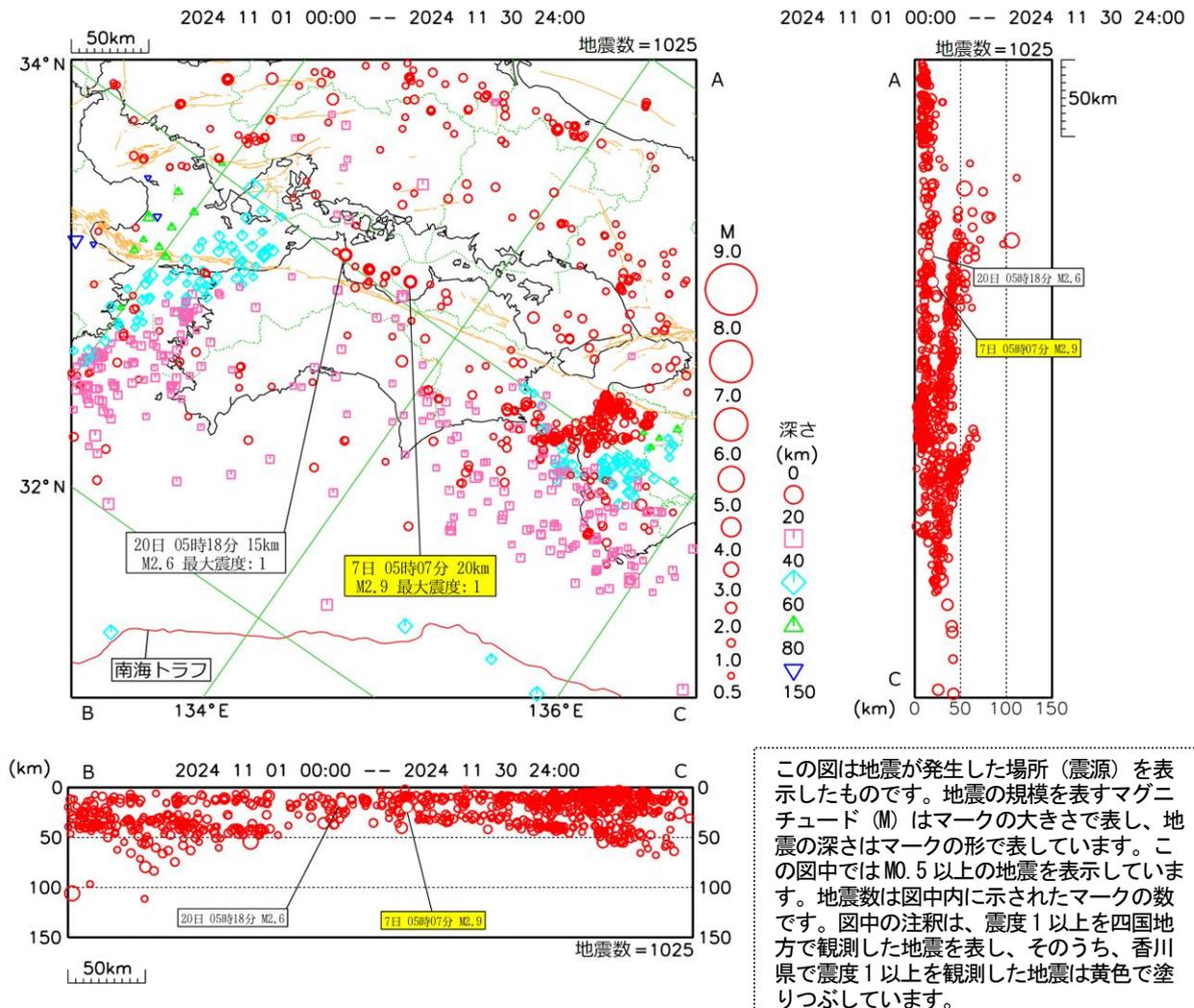
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2024年11月

◎震央分布図、断面図



◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、次の2回でした（前月は1回）。

7日05時07分 瀬戸内海中部の地震（深さ20km、M2.9）により、観音寺市で震度1を観測しました。

26日22時47分 石川県西方沖の地震（深さ7km、M6.6；震央分布図地図範囲外）と26日22時48分 石川県西方沖の地震（深さ3km、M5.0；震央分布図地図範囲外）により、坂出市で震度2を観測したほか、高松市・東かがわ市・土庄町・観音寺市・多度津町で震度1を観測しました。この地震では、石川県輪島市・志賀町で震度5弱を観測したほか、東北・関東・東海・甲信越・北陸・近畿・中国・四国地方にかけて震度4～1を観測しました。

（注）震源が複数記載されている地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないものです。

四国で震度1以上を観測した地震は、前述の他に次の2回でした。

17日21時16分 奄美大島北東沖の地震（深さ80km、M5.9；震央分布図地図範囲外）により、高知県宿毛市・黒潮町で震度1を観測しました。この地震では、鹿児島県奄美市で震度3を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。

20日5時18分 愛媛県東予の地震（深さ15km、M2.6）により、愛媛県今治市で震度1を観測しました。

◎香川県の地震表（震度1以上）

震源時（年月日時分） 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2024年11月07日05時07分 香川県 震度 1：観音寺市豊浜町*	瀬戸内海中部	34° 07.3' N	133° 31.0' E	20km	M2.9
2024年11月26日22時47分 香川県 震度 2：坂出市久米町*	石川県西方沖	37° 00.5' N	136° 23.8' E	7km	M6.6
2024年11月26日22時48分 香川県 震度 1：高松市伏石町, 高松市扇町*, 東かがわ市西村, 土庄町淵崎, 観音寺市坂本町 観音寺市瀬戸町*, 多度津町家中	石川県西方沖	37° 00.3' N	136° 25.8' E	3km	M5.0

*は気象庁以外の震度観測点

（注）震源が複数記載されている地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないものです。

◎震度分布図

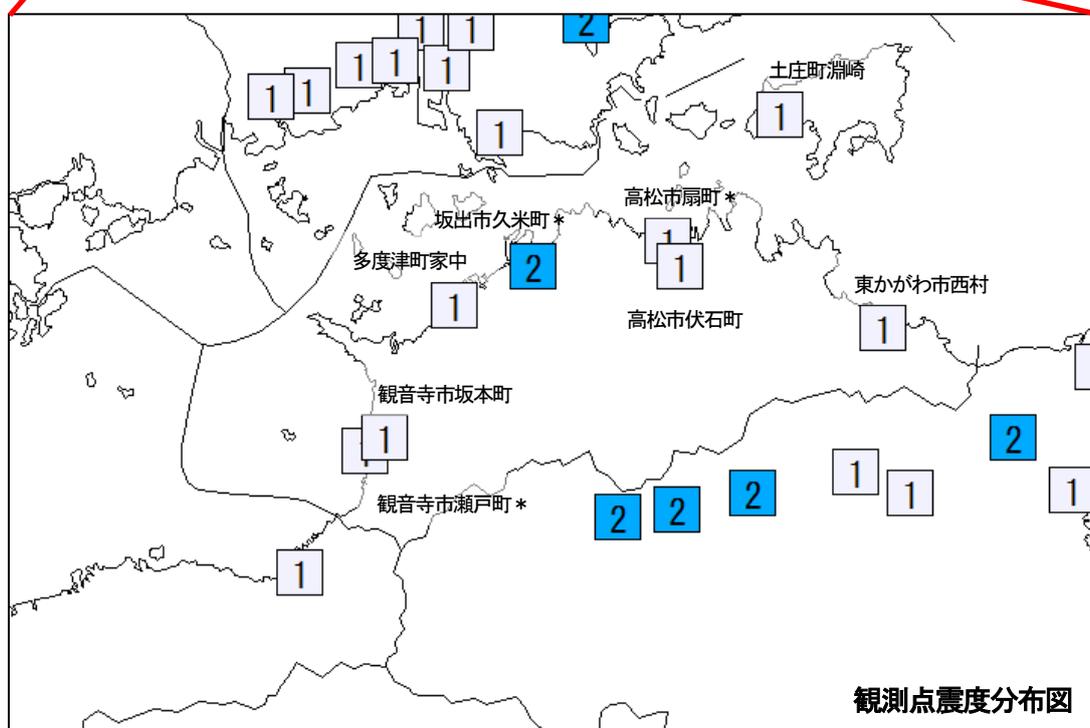
2024年11月07日05時07分 瀬戸内海中部の地震



*は気象庁以外の震度観測点

2024年11月26日22時47分 石川県西方沖の地震

2024年11月26日22時48分 石川県西方沖の地震



*は気象庁以外の震度観測点

(注) 震源が複数記載されている地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないものです。

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

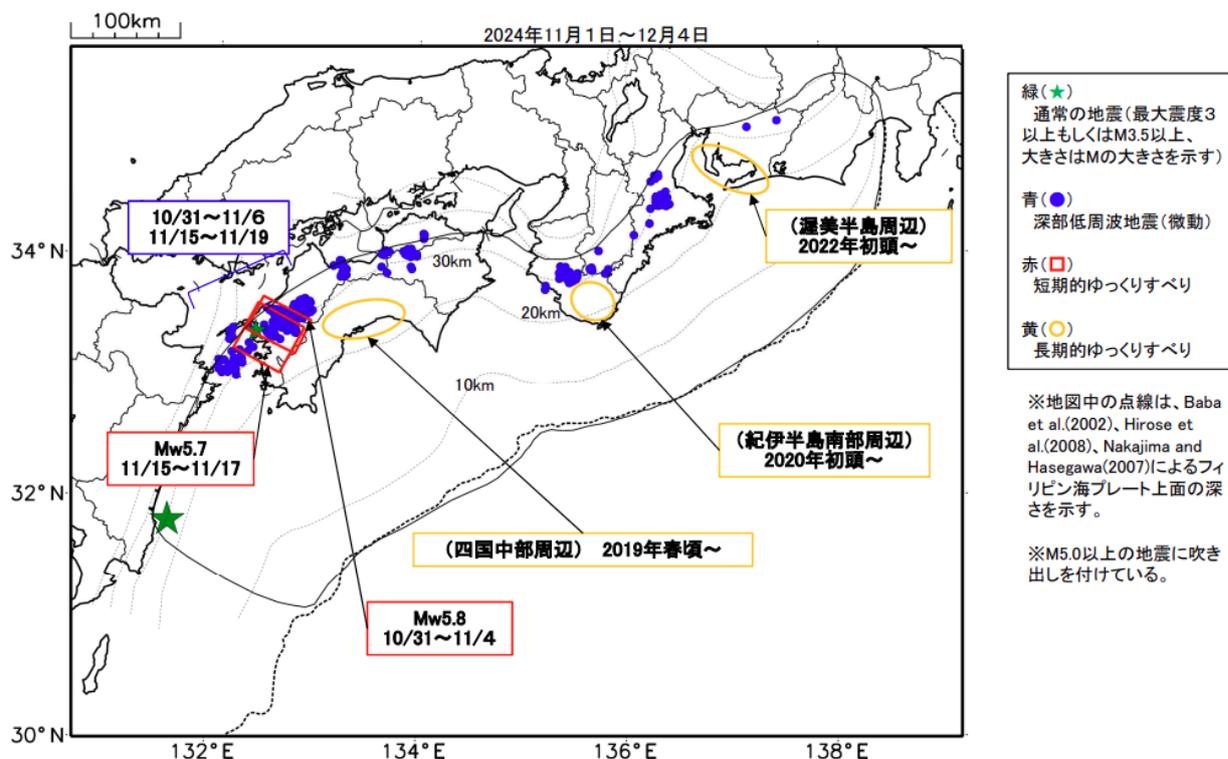
令和6年(2024年)12月6日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果 (概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の地震データの解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の地震データの解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の地震データの解析結果による。
短期的ゆっくりすべり.....産業技術総合研究所のひずみ計データの解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり.....国土地理院のGNSSデータ*の解析結果を元におおよその場所を表示している。
※ <https://www.gsi.go.jp/kanshi/index.html>

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青●)、短期的ゆっくりすべり(赤□)、長期的ゆっくりすべり(黄○)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2412/06a/nt20241206.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

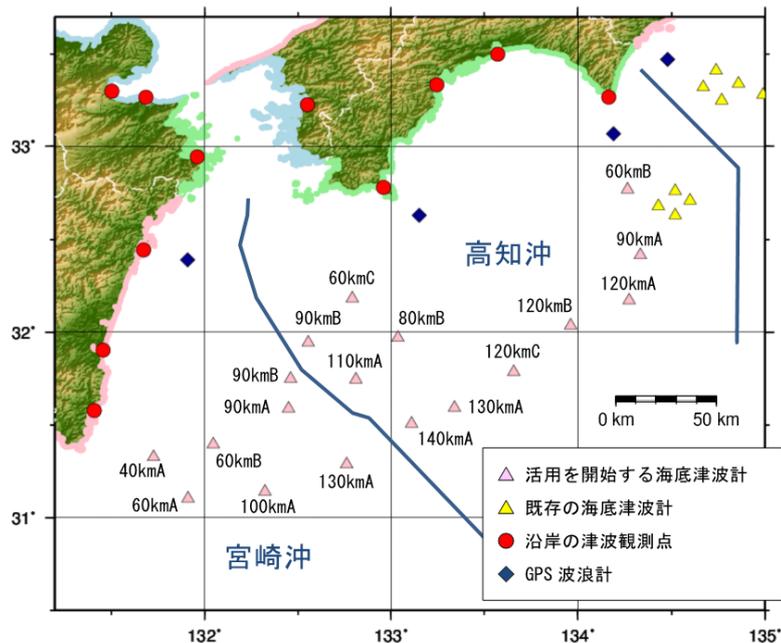
<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

津波情報等に活用する観測地点の追加について

気象庁では、気象庁津波観測点のほか、関係機関の協力を得て、沿岸津波観測点や沖合津波観測点の観測データを津波警報等及び津波情報の発表等に活用しています。

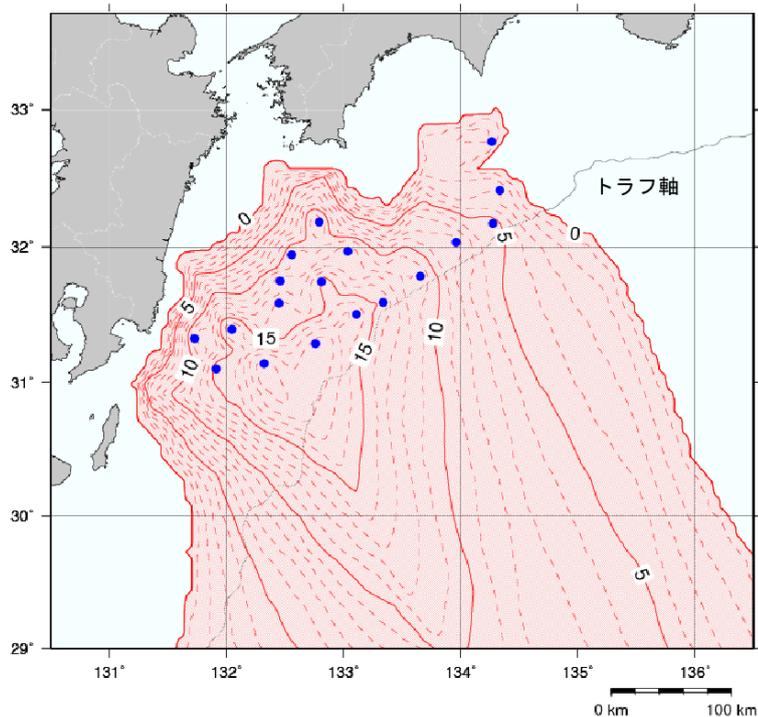
国立研究開発法人防災科学技術研究所が、南海トラフ地震発生時の被害軽減や防災科学技術の発展に貢献するため、「南海トラフ地震の想定震源域のうち、観測網が設置されていない西側の海域（高知県沖から日向灘）にケーブル式海底地震津波観測システムの「南海トラフ海底地震津波観測網（以下、N-net と記述）」を整備しています。



気象庁では、N-net として高知県沖から日向灘に設置された海底津波計 18 地点の観測データについて、今般、品質確認等を行い、津波情報等へ活用する準備が整ったため、令和 6 年 11 月 21 日 12 時から津波情報等への活用を開始しました（図 1）。

図 1 津波情報等への活用を開始する海底津波計の分布図

※活用を開始する海底津波計の地点名称は「〇〇沖」を省略して記載しています。



これにより、主に南海トラフ周辺で発生する地震について、高知県沖から日向灘にかけての津波の検知が従来よりも最大で約 20 分早くなり、津波警報等の更新や、津波観測情報の発表の迅速化や精度向上が図られます（図 2）。

図 2 今回の観測地点の追加による津波早期検知の効果

青点：今回追加する津波観測点

赤い領域：今回の観測地点の追加によって、赤く塗った領域で発生した津波の検知が現在より早くなる領域。数字は分を表す。

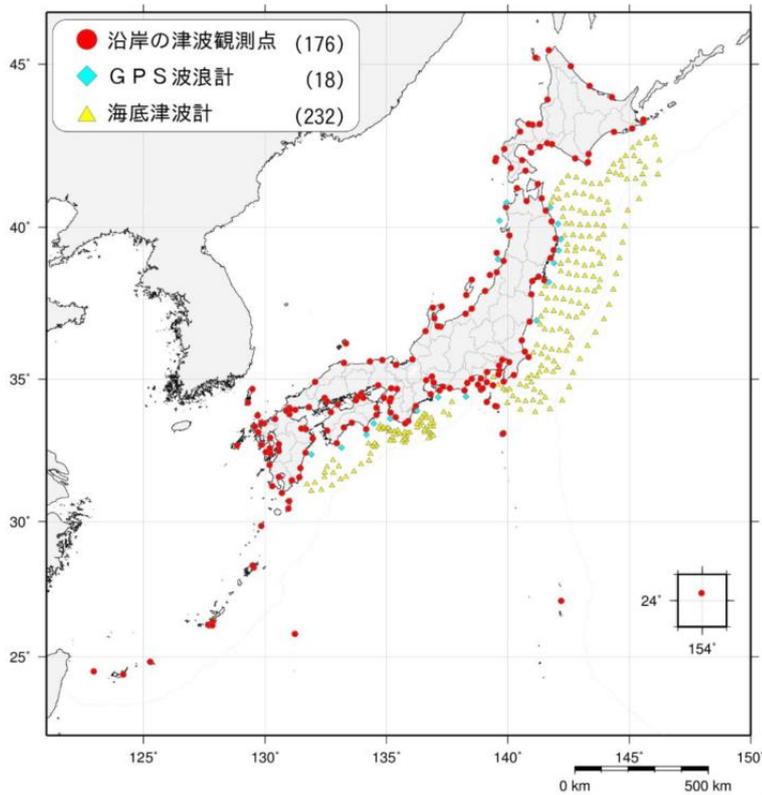


図3 津波の観測値を発表する津波観測点
(令和6年11月21日以降)

また、今回の追加により、津波情報において津波の観測値を発表する沖合の津波観測点数が全国で232地点から250地点に増加しました(図3)。

N-netが高知県沖から日向灘に設置した海底津波計18地点を追加した後の、沖合の津波観測点の数の内訳は次のとおりです。

【内訳】

- 国土交通省港湾局：18地点
- 気象庁(東海沖、房総沖、東南海沖)：6地点
- 海洋研究開発機構(JAMSTEC)(相模湾)：2地点
- 防災科学技術研究所(S-net(150)、DONET(51)、N-net(18)、相模湾(3))：計222地点
- 東京大学地震研究所(釜石沖)：2地点

参考情報

「南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)」沖合システムの整備完了へ(防災科研)
<https://www.bosai.go.jp/info/press/2024/20240618.html>